

第一四九部

高田藩記錄

自 明和二年七月

富澤氏藏書

| |
|-----|
| 007 |
| 1 |
| 149 |

10916

1981 2.24
2885-1-49
蔵書印

郷

明治二十一年

十二月

竹尾友重

原六三

水森吉左

御用書送帳

己七月

中

安松鏡之助

長谷川清平



卷之三

三

一 汝能以此書為一書者則亦可以為一書

一 明夜可一抄一書口口口口口口口口

一 汝能以此書為一書者則亦可以為一書

一 汝能以此書為一書者則亦可以為一書

一 汝能以此書為一書者則亦可以為一書

一 汝能以此書為一書者則亦可以為一書

一 亦在焉 亦得之 亦必改 亦必結 亦必終

一 猶以之 化矣 亦必改 亦必結 亦必終

一 亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

但亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

一 亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

一 亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

一 亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

一 亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

一 亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

一 亦必改 亦必結 亦必終 亦必改 亦必結 亦必終

知者其守之者由之也

一者守其門而守之者由之也
一者守其內而守之者由之也
一者守其外而守之者由之也
一者守其心而守之者由之也

一者守其德而守之者由之也
一者守其行而守之者由之也
一者守其言而守之者由之也
一者守其身而守之者由之也

一者守其心而守之者由之也
一者守其行而守之者由之也
一者守其言而守之者由之也
一者守其身而守之者由之也

守之者

守之者

三日 木下吉

一河野第後山池邊肉下出利系各

一此處山門結經一事在後年山中

一志出待近山信林之旨也信圓時之旨

供物有湯尾布中括流也新打此紙

中法也括之乃信目申力の中申上

申括多古出因之案此亦之信了

左申附之口用使多信方口力信肉出括

之主為顯以尾系布中括多本方亦系亦

初而物有口流云公信之通以是者其

一信神氣系肉方括系方田得信者

中其言信方之入口徑係者一信也信係信力

信之口用口各込一信多細一信者信信通

信之方亦系及之信神氣

一 和久中秩方下茂世の中彼並揚子本務凡
同日刑法友出二道一在分知每男身之
若上之得市階行中事也然若中務物位
其也若事之身之野之命之官之官之推
系後其知母之令之計之文和中之事
身務能之身之速也越刑位有之者
市何事之身之別之在相之系之身之
身之出之身之身之身之身之身之
若身之身之身之身之身之身之
若身之身之身之身之身之身之

親出私之務之身之身之身之身之
現上之身之身之身之身之身之
日身之身之身之身之身之身之

引和文

一 以假之身之身之身之身之身之
身之身之身之身之身之身之
明治之身之身之身之身之身之
身之身之身之身之身之身之
身之身之身之身之身之身之

七月

石田

和久中秩方

一 古國天子定例以飛御一日之命山王為禱
子孫中以此言者P此言山王御知日命之
事物係為天皇也天皇格御禱書為禱
佛上言立誓天皇者止九山岩岩以功定禱
天皇御禱乃天皇御有者御上言誓中誓
山王禱乃天皇御禱

一 中略後之世山王御禱乃天皇御禱
天皇御禱乃天皇御禱乃天皇御禱乃天皇御禱
P 天皇御禱

一 解此也天皇御禱乃天皇御禱

一 中略後之世山王御禱乃天皇御禱乃天皇御禱
天皇御禱乃天皇御禱乃天皇御禱乃天皇御禱
一 乃乃山王御禱乃天皇御禱乃天皇御禱乃天皇御禱
乃乃山王御禱乃天皇御禱乃天皇御禱乃天皇御禱

因於此而...

魏都

夫之無可... 人之道... 節之... 上下... 中...

他上下... 而...

...

...

...

河... 中... 人... 中... 中...

一 事

一 此書の序文に於て、

「此書は、我が國の歴史を、

西洋人の見方から、

如何に記述したる、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

略述する、

其の趣意を、

一 村...
一 如...
一 步...
一 此...

一 榜...
一 此...
六
李

七月廿一日

山田守中

一 馬以孫危為馬車車中不可得 仰有金

口口口口口口口口口口

一 假令口口口口口口口口口口

一 馬以孫危為馬車車中不可得 仰有金

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

七月廿一日

七日

法市

一 成應口口口口口口口口口口

一 成應口口口口口口口口口口

一 成應口口口口口口口口口口

多方高木古亭

甲寅秋以御覽後為結句云云
乙酉秋以御覽後為結句云云
丙子秋以御覽後為結句云云
丁卯秋以御覽後為結句云云
戊辰秋以御覽後為結句云云
己巳秋以御覽後為結句云云
庚午秋以御覽後為結句云云
辛未秋以御覽後為結句云云
壬申秋以御覽後為結句云云
癸酉秋以御覽後為結句云云

以上各書一上之
甲寅秋以御覽後為結句云云
乙酉秋以御覽後為結句云云
丙子秋以御覽後為結句云云
丁卯秋以御覽後為結句云云
戊辰秋以御覽後為結句云云
己巳秋以御覽後為結句云云
庚午秋以御覽後為結句云云
辛未秋以御覽後為結句云云
壬申秋以御覽後為結句云云
癸酉秋以御覽後為結句云云

一 此書の付録に於ては、その時々の世情を反映するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。

一 此書は、その時々の世情を反映するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。

一 此書は、その時々の世情を反映するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。

一 此書は、その時々の世情を反映するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。其の筆致も、頗る豪放にして、筆墨の間に一種の熱情が感じられる。尤も、その内容も、単なる時評に止まらず、世の趨勢を洞察するものあり。

行方好言及上回志摩口島橋此人
群回七中喜事由表少中一事保家
印可美到果万有人回極中月同表
所

一 物野海左の母信次云余を二年長
年事々々養育多事の過々々々
有命

一日 二 歌言信書之厚有因不也新集

一 昨夜何の砂の石指矢志解。西の時
好言及中の時好言及中の時好
中の時好言及中の時好言及中の時好

一 有對何休程。言以休國習之人
信言言万中。格言來万平人

紙を紙に作り換へて
之を紙に作り換へて

一 何れも此の
中へては

一 何れも此の
中へては

一 何れも此の
中へては

一 何れも此の
中へては

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

紙を紙に作り換へて
之を紙に作り換へて

一 何れも此の
中へては

一 何れも此の
中へては

一 何れも此の
中へては

一 何れも此の
中へては

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

一 昔より未だ
と云ふは

内服... 送... 友山... 田... 送
状...

... 今年... 田... 母... 定... 日... 有... 長...

石川... 津...

... 何... 御...

... 中... 山... 信... 書... 矢...

何七
有以之何也
此乃何也何口何行何方
何乃何也

何七
何乃何也何也
但此乃何也何也何也
何乃何也何也何也

何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也

勇悦
昔悦

何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也
何乃何也何也何也

大井安之丞
 青井高安
 伊藤忠兵衛
 石田修善
 山本徳兵衛
 上野重吉
 文悦

但此等皆故吏之流
 何也

一、此等皆故吏之流、其流弊、
 一、在是、即書信多、通商、
 不便、後、以、諸、利、官、若、
 家老

執政
 參政
 公議人
 輔導
 民政幹事
 公用人
 大監察 兼典客
 用度幹事
 側用人
 領奉行
 留守居
 養者益
 勘定奉行

普請奉行

工正

留守居添役

副公用人

目付

監察

宗門奉行

社寺幹事

屋鋪留守居

兩京知郎事

少納戸

司衣兼食監精養別房西食監

髪役

理髪兼司刀目付從監

刀役司刀兼理髪從監

扈從内兼司遊人

少性

史監

書物役

書記

右筆

山左師書長是通致通近取江中教長

少性書物役

右筆

即日分中

以爲多存中

以爲多存中

以爲多存中

以爲多存中

以爲多存中

以爲多存中

此等語句皆屬虛妄之說不可信也

古者一獲敵也之務一也五也也

一 御衆如手足之指也 御衆如手足之指也

一 切機皆為我利也 切機皆為我利也

一 國之存亡在於一也 國之存亡在於一也

一 凡有兵者必有其利也 凡有兵者必有其利也

一 兵者國之命也 兵者國之命也

十

五

一 兵者國之命也 兵者國之命也

集古詩卷

一 綠門深處一花開 紅粉心香處處

一 彩筆如雲錦 彩雲如雪

一 高閣重登人 下步少日春 飛花柳絮

一 玄龍成 玄龍成 玄龍成 玄龍成

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

一 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦 彩雲如雪錦

行

位
位
位
位
位

行
行
行
行
行

日
日
日
日
日

山

十日

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位

十日

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位
位
位
位
位

位

